

市政ニュース

市民の皆さんと新年のあいさつを交わす、

平成24年豊岡市賀詞交換会を開催

1月4日、豊岡市賀詞交換会を豊岡市民プラザで開催しました。

当日は、市民・企業・行政関係者ら約150人が集まり、新年を祝いました。

中貝市長は「今年一年、いのちへの共感に満ちたまちづくりを全力で進め、皆様と共に

に果敢な挑戦を続けていきます」と年頭のあいさつをしました。

また、森田健治市議会議長は「今年は後期基本計画がスタートし、市の新庁舎建設事業では、新本庁舎の建築が始まるなど節目の年になります」と述べました。

韓国慶州市東川初等学校

国際交流体験学習使節団来訪

市では、平成3年に慶州市と旧出石町とが締結した友好親善交流宣言を礎に、毎年小学生の相互交流事業を続けています。

1月11日から13日まで、慶州市東川初等学校国際交流体験学習使節団（教員・児童計27人）が来訪しました。

一行は、中貝市長を表敬訪問し、弘道小学校では、書初め大会やどんど焼き、昔の遊



▲書初めに挑戦

びなどを通して同校児童と交流しました。

また、市内10家庭でのホームステイも体験しました。

「税収確保に努めています」 差押不動産の一斉公売落札金額835万円

税の滞納処分で差し押さ

えた不動産（農地8件、宅地建物等3件）の公売を12月に実施し、11件のうち6件が落札され、落札金額合計が約835万円となりました。

これにより税の滞納分が完納となり、本人へ余剰金を返還できる案件もあり、返還額は合計約220万円でした。

今回は複数の物件を一齐に公売にかけたことで、注目度も上がり、大きな成果となりました。

ました。

公売は滞納抑止効果だけでなく、空き家物件などに新たな手が加わることで地域の活性化にも寄与します。

中には、納付相談を受けて多重債務者であることが分かり、多重債務から救済に導き、生活再建につながった案件もありました。

このように市民の暮らしを守りながら、今後も市税の増収に努めます。

「温泉街の雰囲気」に溶け込むラッピングバス、 城崎温泉に新デザインの巡回バス登場！

12月25日、城崎温泉の伝統工芸品「麦わら細工」の模様と空を悠然と舞う「コウノトリ」が描かれた巡回バスが披露

目されました。

このバスは、城崎温泉旅館協同組合が市の補助を受けて購入したもので、観光客をJR城崎温泉駅から各旅館まで運びます。

また、土・日曜日、祝日には、午前中3往復、観光名所「ハ



▲麦わら細工の模様でラッピングされた巡回バス

チゴロウの戸島湿地」や「玄武洞公園」を巡ります。

「主な市政の動き」

〔12月〕

19日・三方東部工業団地A区画土地譲渡契約締結（2社）

20日・平成23年豊岡市政10大ニュース発表

22日・「健康長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」が地域活性化総合特区に指定

23日・第53次南極地域観測隊越冬隊員（本市職員）南極昭和基地に到着

26日・新潟県三条市に避難している被災者へ「お正月産品」発送

28日・市役所仕事納め式・植村直己冒険館年末年始特別開館（30日、1月3日）

〔1月〕

3日・コウノトリ文化館新春特別開館（4日）

4日・市役所仕事始め式・豊岡市賀詞交換会

6日・城崎消防団出初式（8日・豊岡、竹野、但東、9日・出石）

8日・豊岡市成人式
14日・豊岡市消防本部消防出初式

地域経済と環境に大いなる貢献

三方東部工業団地に新たに2社の進出が決定!

市が企業誘致を進めていた三方東部工業団地に、新たに2社の進出が決定し、12月19日に土地譲渡契約を締結しました。

(株)SHTホールディングスは、ハイブリッド車を支える

センサ・コアなどの電子機器用回路部品製造を手掛ける会社などの企業グループの資産管理会社で、工場用地として取得されました。

(株)ミルクマンは、市内に営業所を持ち、乳飲料宅配および宅配水の事業を展開しています。宅配のボトルウォーター製造工場用地として取得し、平成25年春の操業を計画しています。

2社ともに、市が進める「豊岡エコバレー」の実現に大きく寄与する環境経済型企業であり、地域経済の活性化、新たな雇用の創出という点から

も大いに期待されます。

今回の土地譲渡で、三方東部工業団地の立地企業数は4社となり、全区画の譲渡を終了しました。



▲(株)ミルクマン代表取締役の久保田浩哲さん(右)と中貝市長

笑顔あふれる健康マイレージ

健康ポイント交換による本年度の学校への寄付がまとまりました

市では、市民の皆さんの健康づくりへの動機付けと運動習慣の定着を促し、笑顔あふれるまちづくりを目指すため、「健康ポイント制度」を8月に創設しました。

この制度は、市が今後策定する「豊岡市歩いて暮らすまちづくり構想」を推進する事業です。

同制度スタート時670人だった参加者は、12月末現在で1174人に増えています。

昨年12月末で、131人、41万4160ポイントの交換申請を受けました。

うち約37万8千ポイントは、指定された保育園、こども園、幼稚園、小・中学校への寄付(10ポイント1円換算)対応を行います。この中には学校(PTA)がとりまとめを協力している分も入っています。

残りの3万3千ポイントは、健康施設や温泉施設の利用券への交換です。

学校への寄付は毎年12月末までの取りまとめ期限がありますが、施設利用券への交換は随時行っていますので、ぜひ活用ください。



▲健康ポイント手帳

中貝市長の徒然日記 ⑤

白鵬2万人を持ち上げる

市役所本庁舎が1メートル上がりました。持ち上げたのは64個のジャッキです。全重量約3千トン。実に横綱白鵬2万人に相当する重さです。

重いやらなあと同情します。その本庁舎を2月上旬、コ口を使って前に25メートル動かし、7階建ての新庁舎が建ちます。新庁舎建設に当たって、現本庁舎をどうするのが課題となりました。壊してしまえという声もありました。

しかし、本庁舎は、昭和2年に北但大震災(大正14年)からの復興の象徴として建てられた非常に美しい建物で、震災の記憶を伝える建造物です。残すことにしました。

これまで日本は別の道を走ってきました。受け継いできた自然や歴史や伝統を壊し、古い街並みを壊して、比喩的に言うと、コンクリートの四角い建物ばかりの、同じ顔をしたつまらないまちを作ってきました。しかもそれは、時

間の経過とともに、風格ではなく汚さを増していくような、粗雑なまちでありました。

顔が同じなら、体が大きいほうが勝つに決まっています。私たちは資本力のある都市に勝つことはできません。

私たちは、壊しては作るという、刺激的ではあるけれども記憶を喪失していくようなまちづくりではなく、受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継いでいくという道を歩まなければなりません。

被災地では、今なお、失われた大切な日常を取り戻すための過酷で懸命な努力が続けられています。そしてその日常は、地域の自然や歴史や伝統によっても深く支えられています。一度断ち切られたか

ら、東北の人々を思い浮かべ、ふと、そんなことを考えました。